

令和3年度 東京港 港湾整備 事業概要



1 東京港 港勢

2 東京港の整備など

3 東京港の長期構想



東京港 港勢 —令和2年—

■ 港 勢

○入港船舶	21,154隻	(前年比 91%)
○貨物量合計	8,088万トン	(前年比 92%)
・外貿貨物	4,640万トン	(前年比 96%)
外貿コンテナ取扱個数	426万TEU	(前年比 94%)
・内貿貨物	3,448万トン	(前年比 88%)

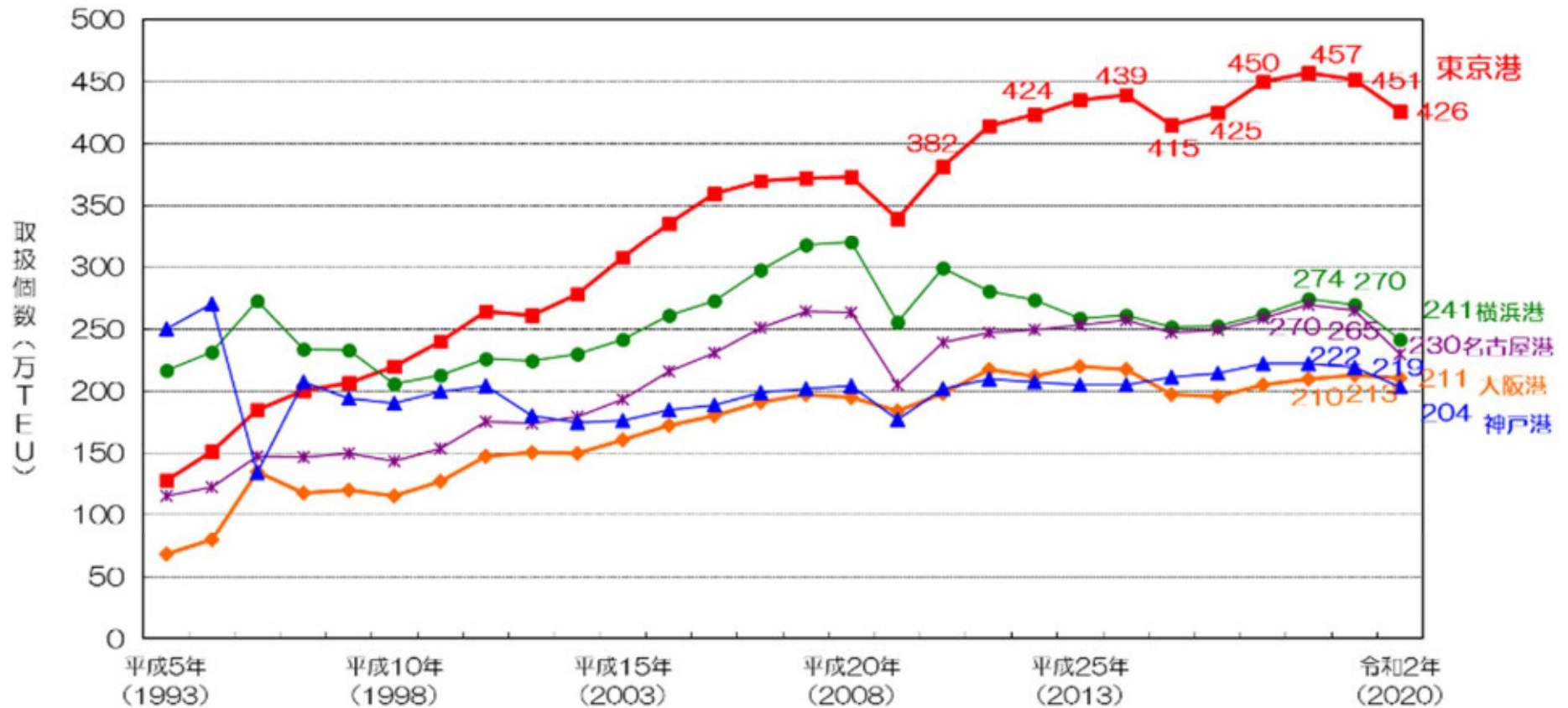
「東京港港勢」より作成

■ 税関別貿易額

・東京港	16.2兆円	(前年比 94%)
・横浜港	9.9兆円	(前年比 83%)
・名古屋港	14.7兆円	(前年比 85%)

※管内各官署の通関額を集計したもの 「東京税関資料」より作成

5大港の外貿コンテナ取扱個数



1 東京港 港勢

2 東京港の整備など

3 東京港の長期構想



2 東京港の整備など

◆ ふ頭

◇ ふ頭整備

◆ 道路ネットワーク

◆ クルーズ客船、舟運の活性化など

◆ 海岸保全施設による災害への備え

◆ 環境対策

ふ頭整備

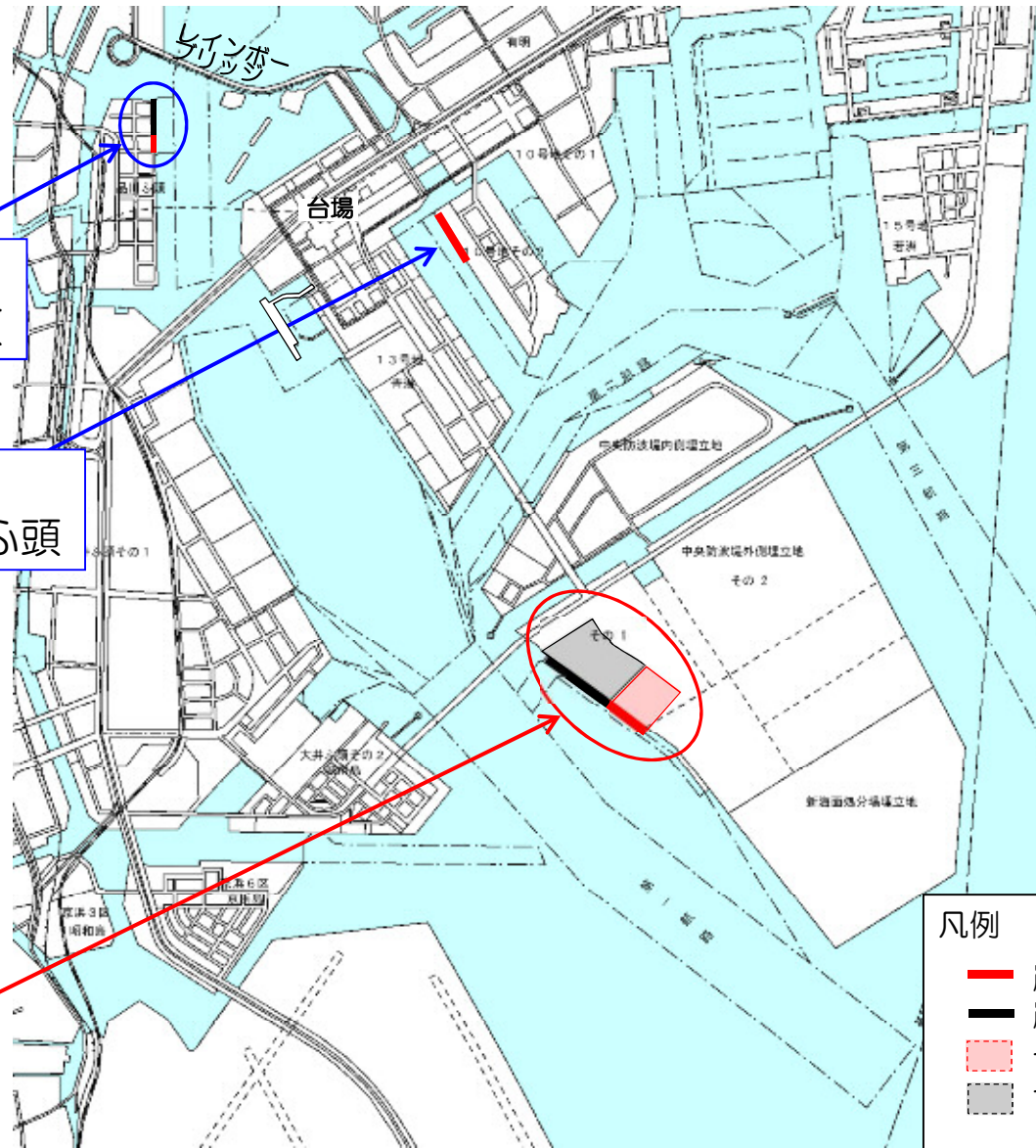
【内貿】

①品川内貿
ユニットロードふ頭

②10号その2
ユニットロードふ頭

【外貿】

①中央防波堤外側
コンテナふ頭



～整備位置図～

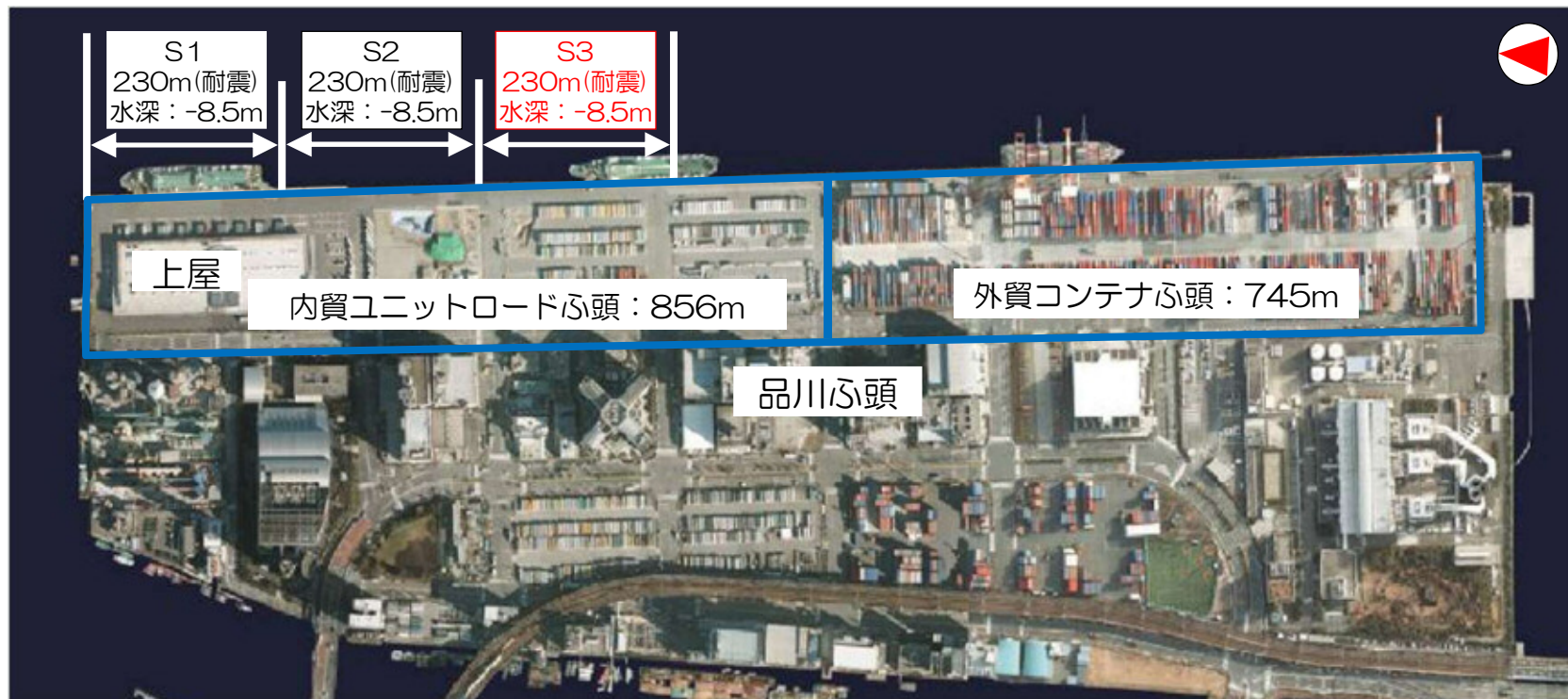
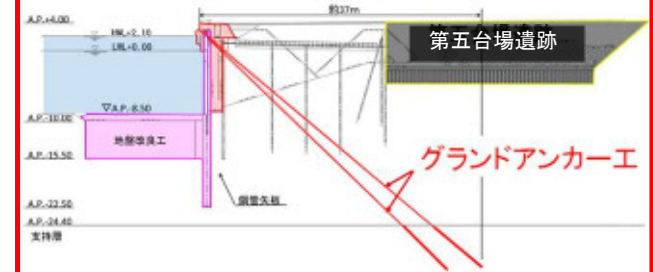
品川内貿ふ頭

- 内航海運における貨物のユニット化、船舶（RORO船）の大型化に対応
- S1バース：平成23年度完了
- 上屋建替え： //
- S2バース：平成28年度完了
- S3バース：平成29年度～ 整備中

S3バース(施工中)



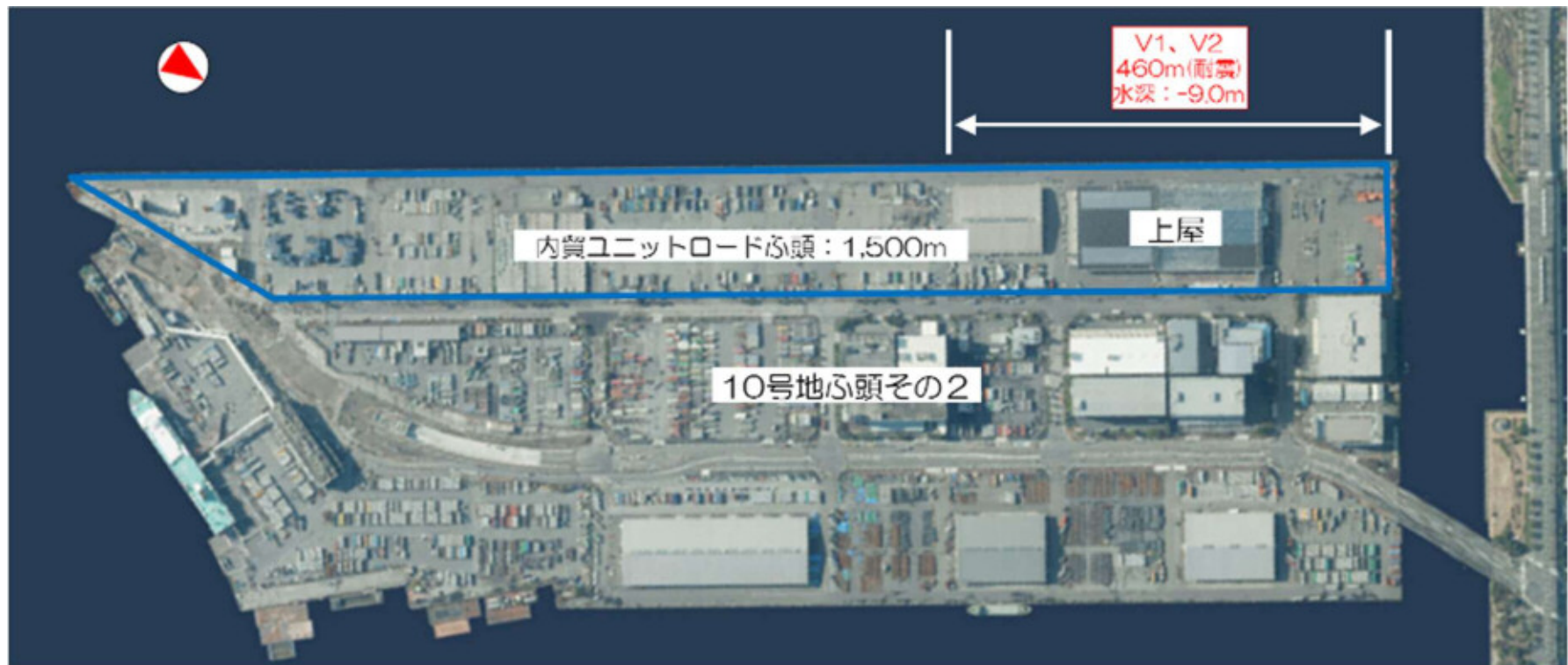
耐震強化岸壁断面図



10号その2地区ユニットロードふ頭

- 内航海運における貨物のユニット化、船舶（RORO船）の大型化に対応
- 上屋建替え：令和2年度完成
- V1、V2バース：調査・設計（～令和5年度予定）以降、順次工事に着工予定

完成した上屋の状況



中央防波堤外側コンテナふ頭

- ▶ 東京港の国際競争力を強化し、国際基幹航路及びアジア航路の維持拡大を図るため、中央防波堤外側コンテナふ頭の整備を行う。
- ▶ Y2バースは令和2年3月23日に供用を開始し、4月8日に第一船入港。



～Y1・Y2ターミナル施設概要～

	Y1	Y2
借受者	(株)上組	三井倉庫(株)、日本通運(株)、(株)住友倉庫、山九(株)
岸壁	延長：230m、水深：-11m	延長：400m、水深：-16m
総面積	129,319㎡	203,226㎡
蔵置量	実入：4,200TEU リーファー：360FEU 空：5,065TEU	実入：11,310 TEU リーファー：552 FEU 空：3,930 TEU
ガントリークレーン	(中折れ式) 3基 16列対応	(シャトルブーム式) 3基 22列対応
荷役方式	RTG方式	RTG方式
車両待機場	約 80台	約 280台
供用開始	平成29年11月	令和2年3月 10

Y2ターミナル供用状況

Y2ターミナル
全景



Y2ターミナル



Y1ターミナル

Y2ターミナル
車両待機場



2 東京港の整備など

◆ ふ頭

◆ 道路ネットワーク

◇ 臨港道路南北線及び接続道路

◇ 緊急輸送道路の橋梁耐震化

◇ 無電柱化

◆ クルーズ客船、舟運の活性化など

◆ 海岸保全施設による災害への備え

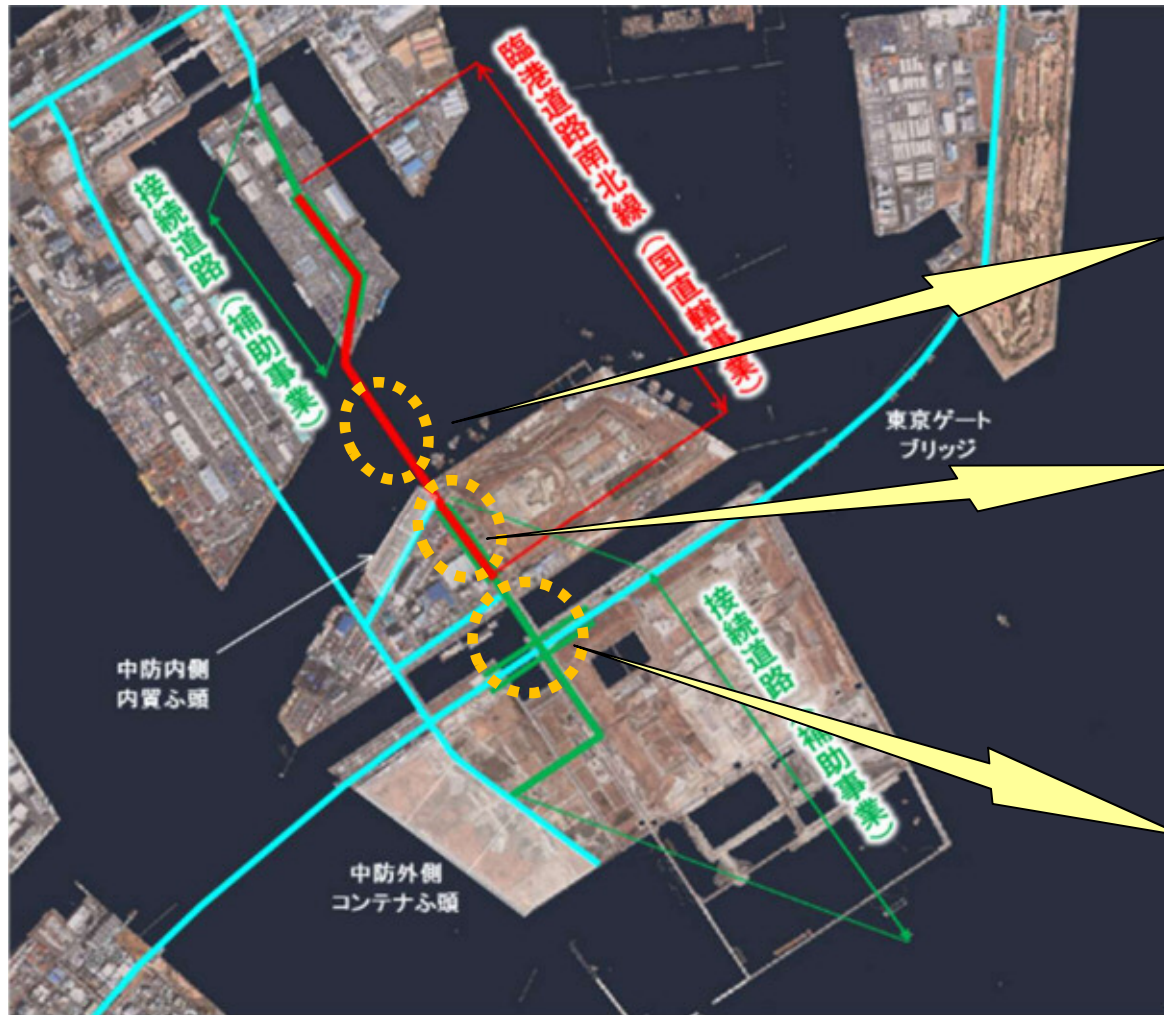
◆ 環境対策

道路ネットワーク整備

東京港の東西、南北方向の道路ネットワークを拡充し、東京港の物流機能を一層強化



臨港道路南北線及び接続道路



～位置図～



東京港海の森トンネル
沈埋トンネル部（直轄）



東京港海の森トンネル
陸上トンネル部（直轄）



海の森大橋（補助）

臨港道路南北線及び接続道路の開通後の交通状況

■ 整備による効果

今回開通区間と並行する青海縦貫線
(中防大橋北詰交差点)の交通状況



※中防大橋北詰交差点、東京港海の森トンネルの交通量は、R1.8.20(火)およびR2.10.22(木)の交通量調査結果
※第二航路海底トンネルの交通量は、トラカンデータの平日平均

橋梁の耐震補強



東日本大震災級の大地震発生時において、被災者への緊急物資・避難者等の円滑な輸送や、首都圏の経済活動を維持するため、**緊急輸送道路上等の橋梁耐震補強を推進**

- 緊急輸送道路上の橋梁
- 耐震化完了
 - 耐震工事中
- その他の橋梁
- 耐震工事中
 - 耐震化予定

現在の整備状況 橋梁の耐震補強(城南野鳥橋)

■城南野鳥橋 落橋耐震化



～施工前(埋立前)～



～現況(道路切り回し、橋梁撤去後)～



～(橋りょう撤去状況)～

臨港道路等の無電柱化

無電柱化の目的

- 東京港の防災機能の強化
- 臨海部の魅力ある都市景観の創出
- 安全で快適な歩行空間の確保

臨港道路とは

◇港湾法に基づく港湾物流を支える施設

(臨港交通施設)

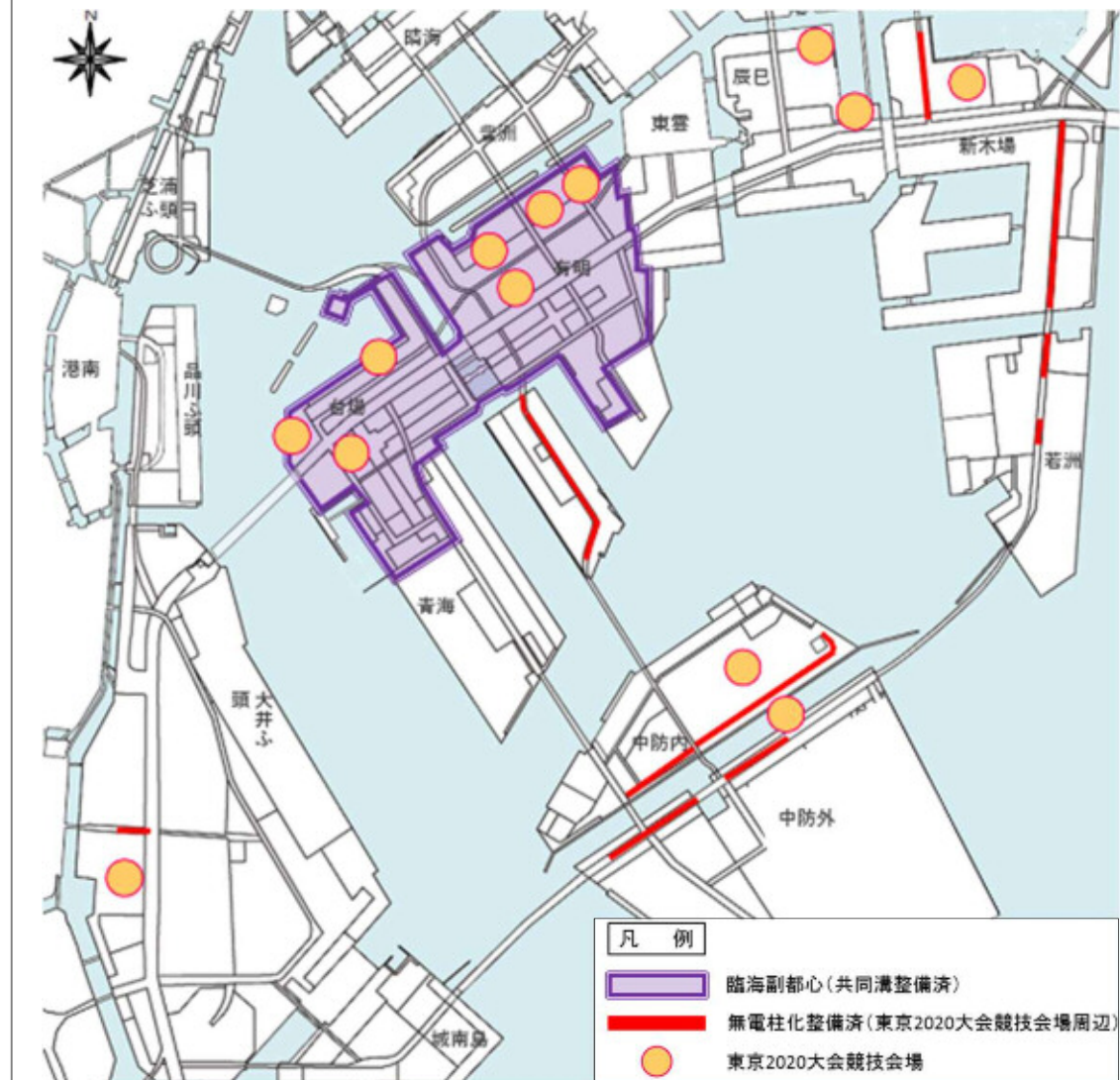
- 首都圏4,000万人の生活と産業活動を支える東京港と背後地とを結ぶ道路
- **大規模地震等発生時**においても、緊急物資の輸送や国際コンテナ物流を停滞させないよう東京港と背後地とを円滑に結ぶ

◇港湾局が東京都港湾管理条例に基づき管理

これまでの取組

- ◇ **東京2020大会競技会場周辺の臨港道路等の無電柱化を推進**
(令和3年度末現在 全て完了)
- ◇ **全ての緊急輸送道路の無電柱化に向け事業着手**
- ◇ **臨港道路全線で電柱の新設を禁止**
(平成29年9月)

無電柱完了箇所



臨港道路等の無電柱化

■無電柱化事業 整備済箇所状況



有明心頭連絡線



中防内3号線



新木場・若洲線

■無電柱化事業 整備予定箇所状況



大井1号線



青海3号線



中防外1号線

臨港道路等の無電柱化

今後の取組（無電柱化加速化戦略）

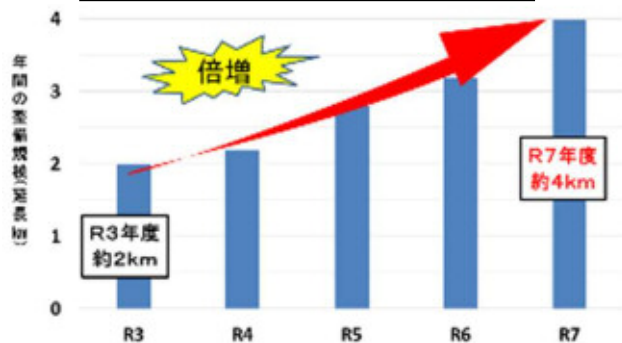
◇緊急輸送道路に加え**東京港内の全ての臨港道路やふ頭敷地等に対象を拡大**

- ・緊急輸送道路：2035年度の完了を目指す
- ・東京港全エリア：2040年度の完了を目指す

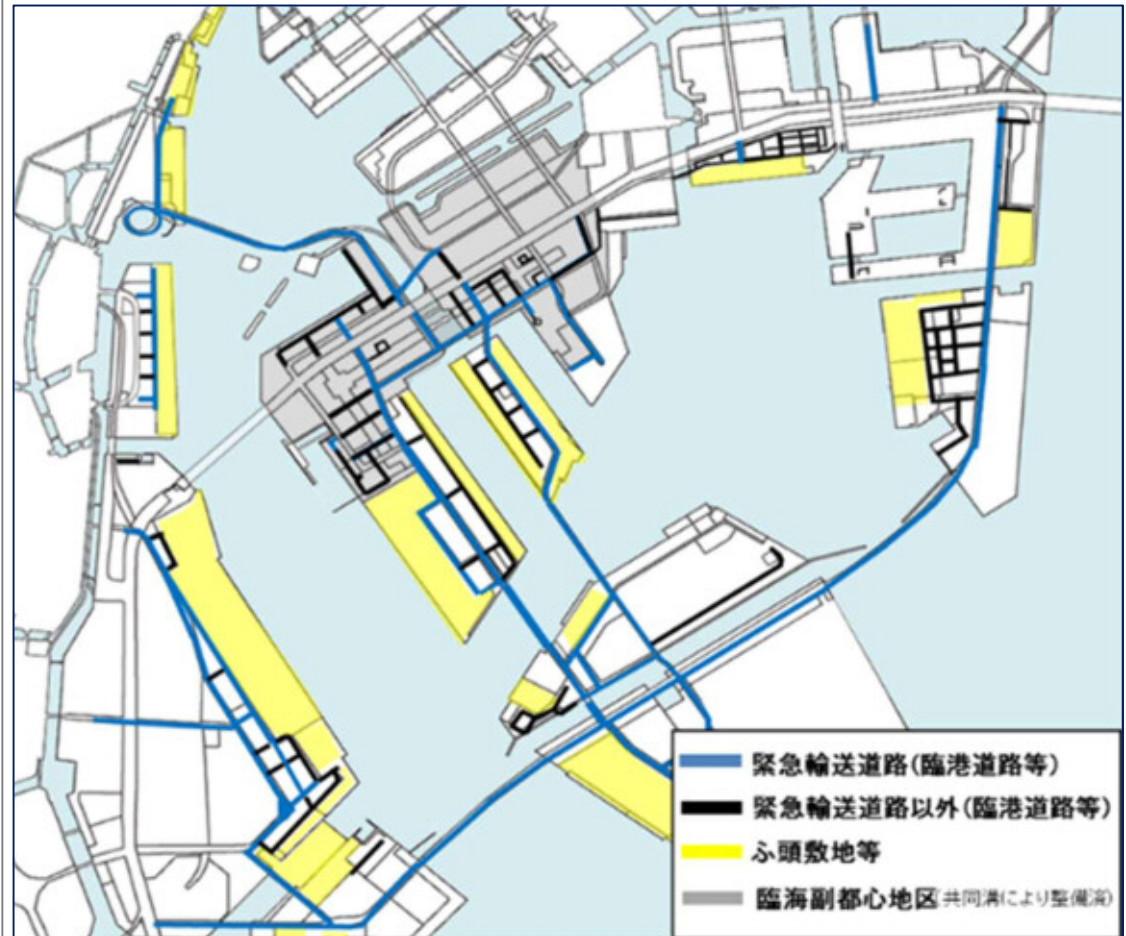
◇無電柱化事業の加速化

- ・整備目標の達成に向け、年間の整備規模をこれまでの約2 kmから令和7年度に約4 kmへと倍増
- ・電柱新設禁止エリアを東京港のふ頭敷地等へ拡大

年間の整備規模倍増のイメージ



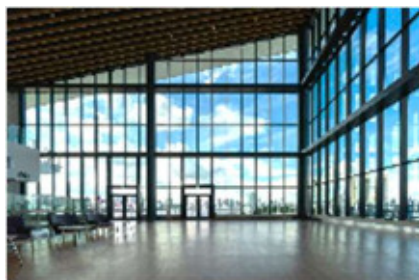
無電柱化対象箇所



2 東京港の整備など

- ◆ ふ頭
- ◆ 道路ネットワーク
- ◆ クルーズ客船など
 - ◇ クルーズ客船
 - ◇ 新視察船「東京みなと丸」
- ◆ 海岸保全施設による災害への備え
- ◆ 環境対策

東京港におけるクルーズ客船受入施設



東京国際クルーズターミナル 2020年9月10日開業

◆ターミナルビルの構造等

- ・鉄骨造4階建て（最高高さ 約35m）
- ・延床面積 19,116.67㎡、奥行 約40m、幅 約130m

◆ターミナルビルの特徴

《 設計コンセプト：首都の玄関口 》

・ダイナミックな大屋根

「海の波」、「船の帆」、
日本の伝統的な「屋根のそり」
をイメージ

・開放的なロビー空間

3、4階を吹き抜けとした
高い天井により開放的で
心地よいロビー空間を実現

〈主な施設〉

4階	送迎ラウンジ 屋外テラス(送迎デッキ)
3階	出入国審査、検疫 チェックインカウンター
2階	税関、バゲージホール 宅配便受付等
1階	ロビー(出入口) バゲージ受付

◆所在地 東京都江東区青海二丁目地先

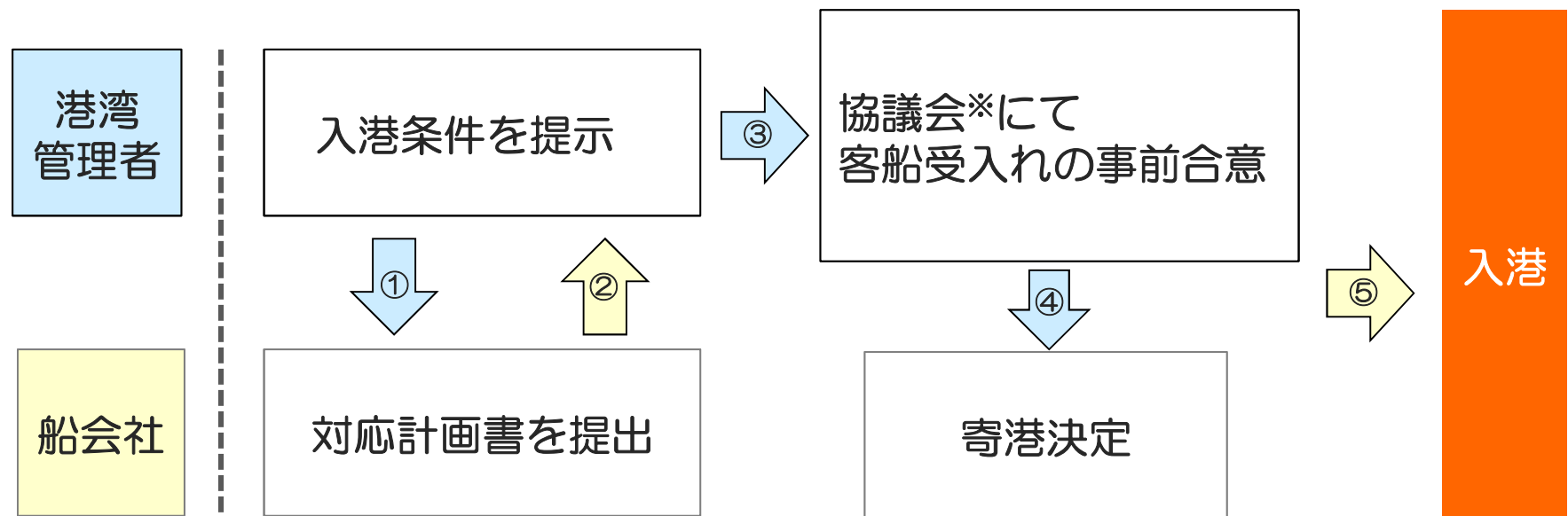
◆連絡先 03-5962-4391

◆開館時間 午前9時から午後5時まで

クルーズ客船の運航再開に向けた取組

- クルーズ客船の利用者および関係者等の安全・安心を確保し、クルーズ客船の受入れを実施していくため、「クルーズ客船の東京港への入港条件※」を制定
 - ※ 本条件は、国内クルーズを想定したものであり、国際クルーズの受入れを開始する際は、国の指針等を踏まえ別途検討
- 寄港を希望する船会社が感染症対策を講じているか等を事前に確認の上、入港条件を満たしている船会社のみ入港

入港までの流れ



※ 都道府県等の衛生主管部局を含む地域の関係機関で構成

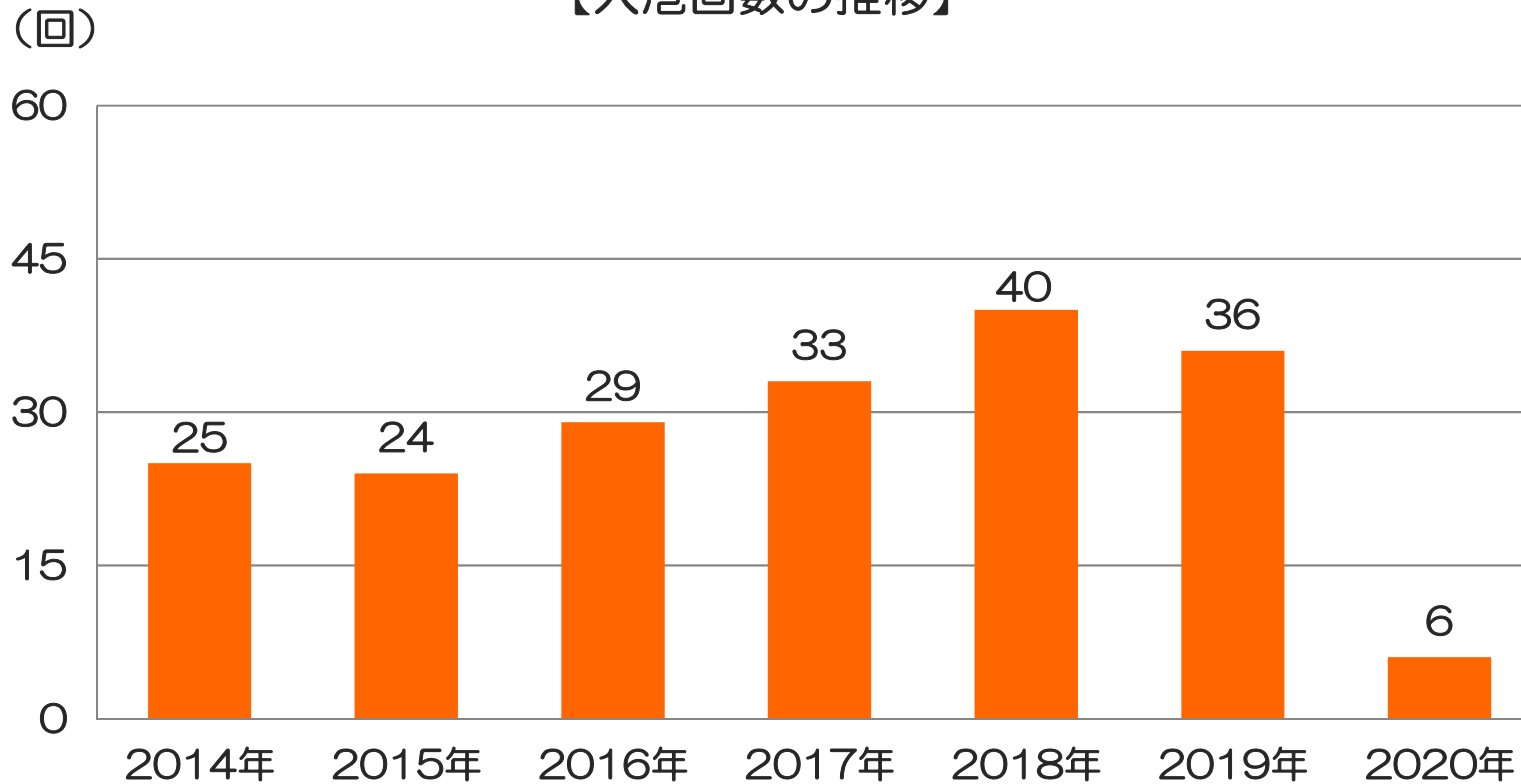
クルーズ客船入港状況

【入港状況】

- 2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅減
- 2021年以降※は、年間100回程度のニーズがあり、引き続き、東京港への期待は大きい

※ 新型コロナウイルス感染症収束後

【入港回数の推移】



新視察船「東京みなと丸」が就航開始

新視察船「東京みなと丸」

全長 : 35.00m
幅 : 7.78m
深さ : 3.14m
満載喫水 : 約1.3m
巡航速度 : 13 ノット
総トン数 : 215 トン



2 東京港の整備など

- ◆ ふ頭
- ◆ 道路ネットワーク
- ◆ クルーズ客船など
- ◆ 海岸保全施設による災害への備え
 - ◇ 高潮や地震等へのハード対策
- ◆ 環境対策

東京港海岸保全施設整備計画

■「東京港海岸保全施設整備計画」の概要

【計画期間】 10年間(平成24年度～平成33年度)

【整備概要】

(ア) 防潮堤・内部護岸の耐震対策

- ・背後地盤が想定津波高より低い箇所
- ・耐震対策未実施箇所(これまでの計画の継続)

	整備対象
防潮堤	17.4km
内部護岸	25.6km
合計	43.0km

※水門廃止に伴う防潮堤整備(4箇所)

(イ) 水門・排水機場の耐震・耐水対策

- ・耐震対策、耐水対策が必要な施設

	整備対象
水門	13施設
排水機場	3施設
合計	16施設

(ウ) 水門操作等

- ・高潮対策センターの2拠点化、陸こうの削減 等



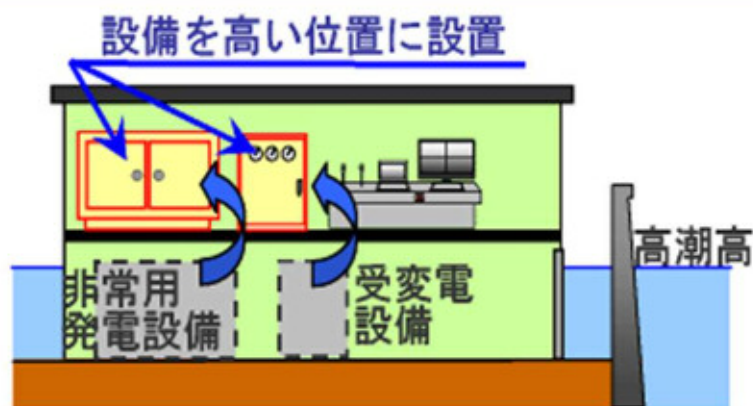
水門・排水機場（辰巳排水機場の再整備）



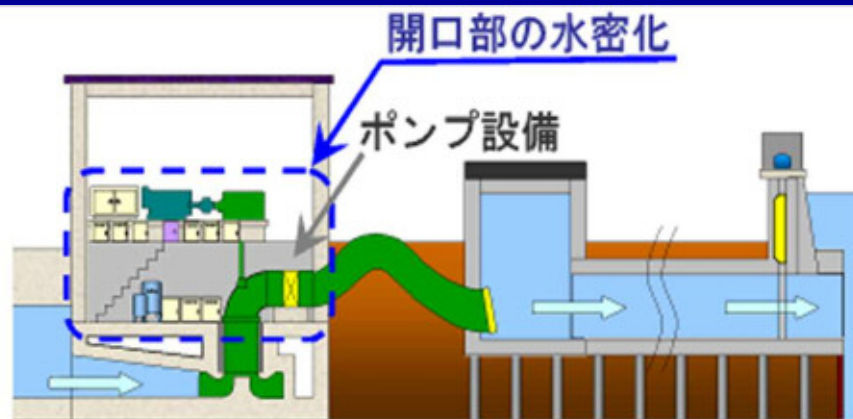
水門・排水機場（辰巳排水機場の再整備）



水門・排水機場（水門の耐水対策）



水門管理棟



排水機場・ポンプ所等

耐水化のイメージ



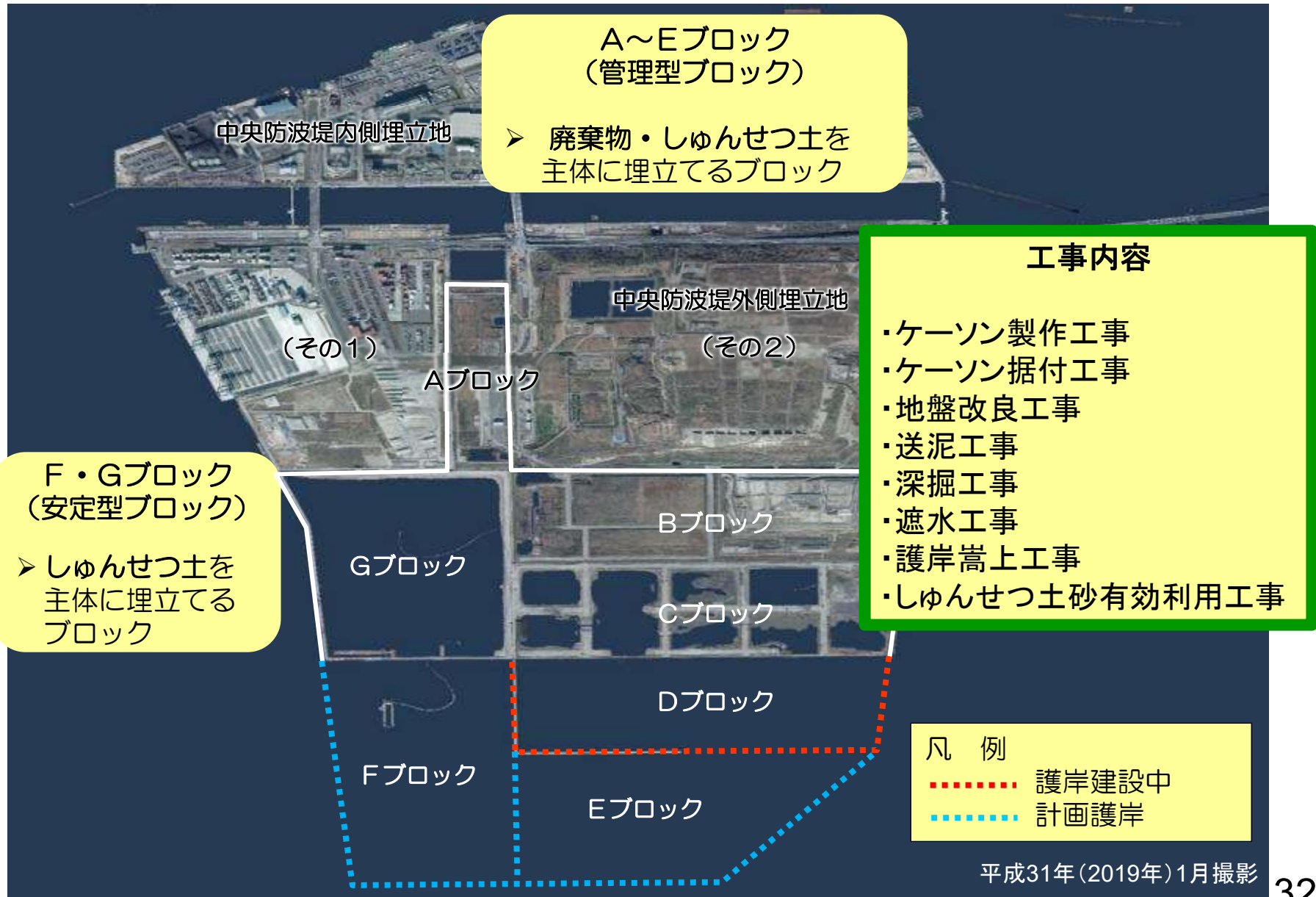
発電機室のジャッキアップ例

（古川水門）

2 東京港の整備など

- ◆ ふ頭
- ◆ 道路ネットワーク
- ◆ クルーズ客船など
- ◆ 海岸保全施設による災害への備え
- ◆ **環境対策**
 - ◇ **新海面処分場**
 - ◇ **汚泥しゅんせつ**

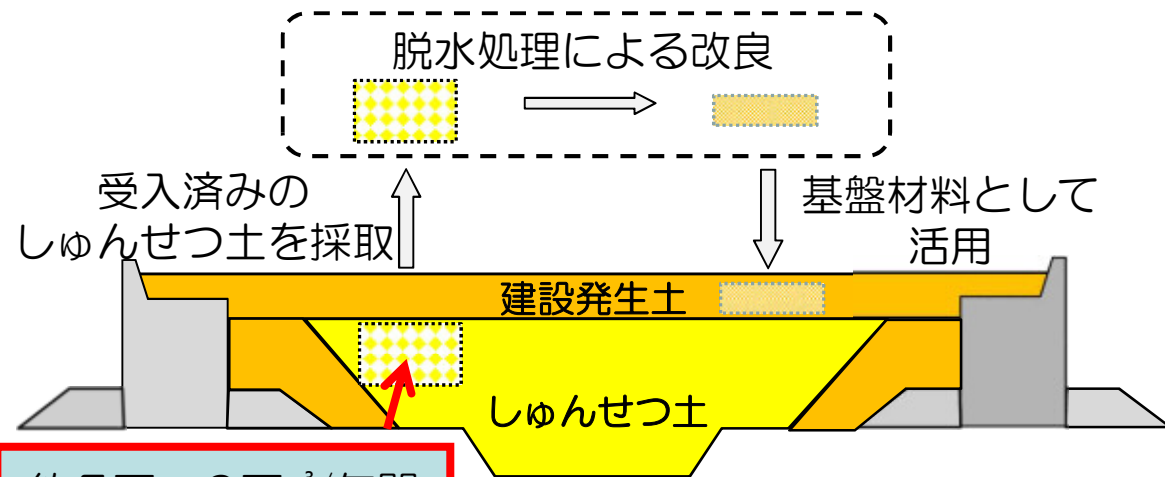
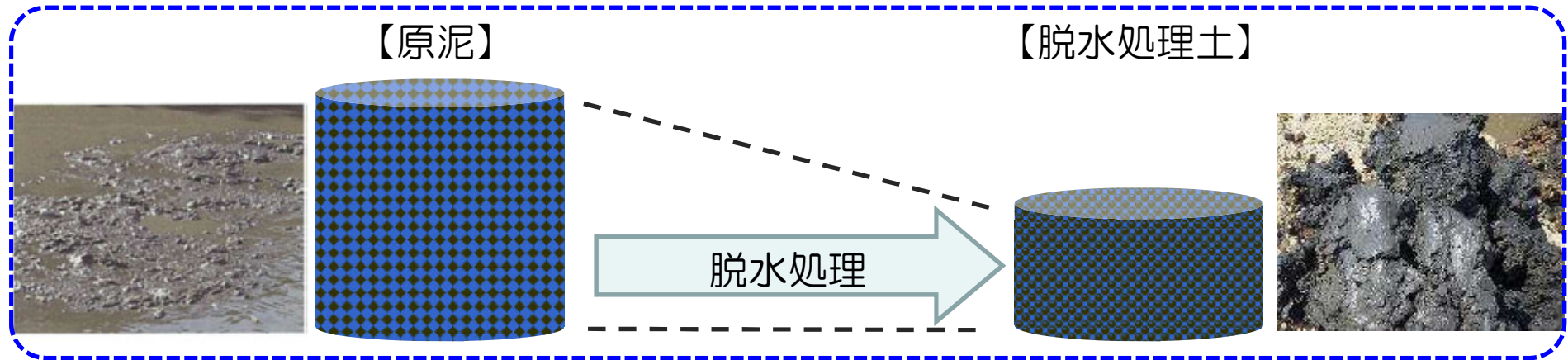
新海面処分場の整備



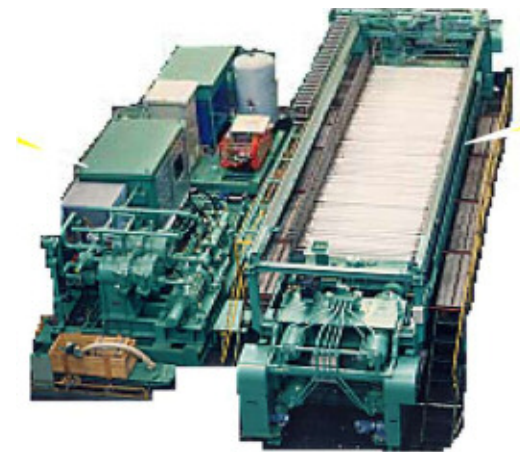
しゅんせつ土の有効利用

■ 概要

受入済のしゅんせつ土を掘り返し、脱水処理することにより、固形化し、
基盤材料などの土木材料として有効利用することにより、
掘り返したしゅんせつ土と同量の容量増大を図る。



約5万~6万 m^3 /年間



脱水機外観

汚泥しゅんせつ

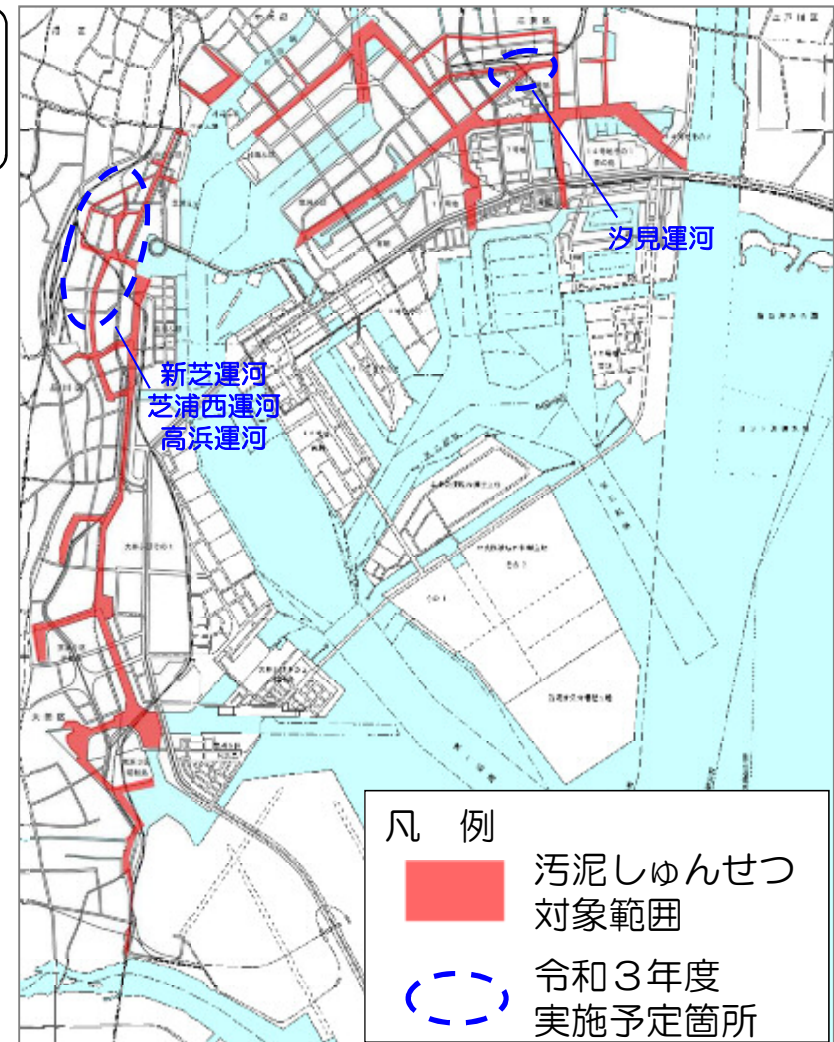
▶ 有機汚泥の度合いを表すものとして、底質のT-N、T-P、COD、含水比の4項目の分析を行い、含有量別に評価点をつけ、合計が8以上のものを除去対象としている。

底泥評価基準

T-N (mg/g)	T-P (mg/g)	COD (mg/g)	含水比 (%)	評価点	判定
0.99 以下*	0.64 以下** 0.65 以上	12.8 以下*	200未満	0	↑ 合計点が 8以上で 除去
1.00 以上	0.74 "	12.9 以上		1	
	0.82 "	19.9 "		2	
1.01 "	0.91 "	26.6 "		3	
1.34 "	0.99 "	33.2 "		4	
	1.07 "	39.9 "		5	↓ 除去
1.68 "	1.16 "	46.5 "		6	
2.02 "	1.25 "	53.2 "	200以上	7	
2.35 "				8	



～施工状況～



これまでの実績（昭和47年からの累計）
：約457万m³（10tダンプ約83万台分）

1 東京港 港勢

2 東京港の整備など

3 東京港の長期構想



東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想

■背景

- ◇ 現在、東京港では平成26年に策定した第8次改訂港湾計画に基づき、港湾機能の強化を推進
- ◇ 近年、アジア貨物の更なる増加やAI・IoT等の情報通信技術の進化など、東京港を取り巻く環境は大きく変化
- ◇ 首都直下地震等の発生や頻繁化・激甚化している高潮・台風等のリスクの増大が懸念
- ◇ 東京2020大会のレガシーの継承、クルーズを核とした観光拠点の形成、脱炭素社会への実現など様々な分野の取組が必要
- ◇ 令和2年11月、東京都港湾審議会に「東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想」を諮問し、長期構想検討部会を設置
- ◇ 「物流」「防災・維持管理」「環境」「観光・水辺のまちづくり」の4つの視点から、2040年代の東京港のあるべき姿を検討

■長期構想と港湾計画

	東京港第9次改訂港湾計画 に向けた長期構想	改訂の 指針	東京港第9次改訂港湾計画
定める 内容	将来を見据えた港湾計画の 改訂を行うため、 長期的な視点で港湾空間の あり方を整理		<ul style="list-style-type: none"> • 港湾計画の方針 • 港湾の能力 • 港湾施設の規模及び配置 • 港湾の環境の整備及び保全 • 土地造成及び土地利用計画 等
目標年次	概ね20年後 (2040年代)		概ね10年後 (2030年代)
検討 スケジュール	令和2年度～令和3年度 (2020～2021)		令和4年度～令和5年度 (2022～2023)

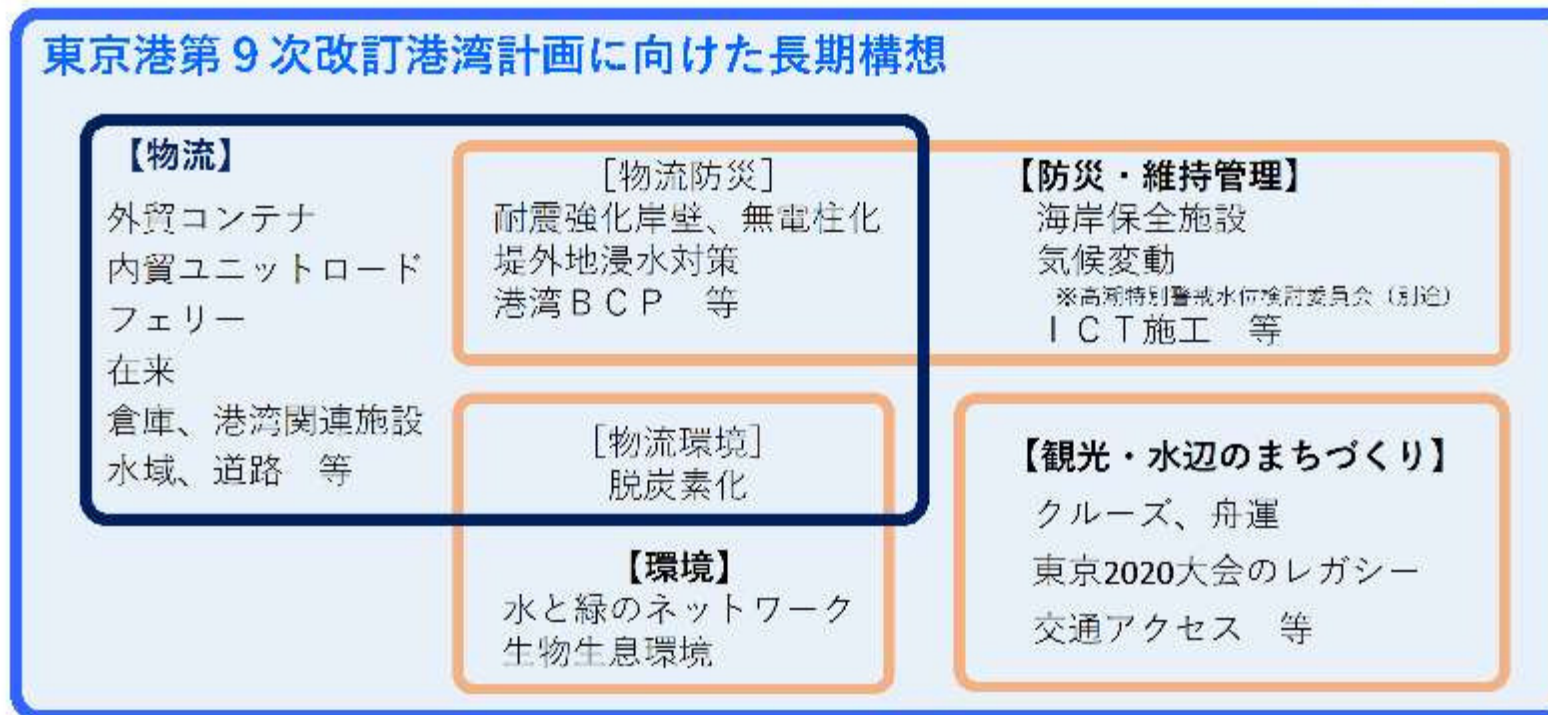
長期構想の検討範囲と関連計画

■ 港湾の関連計画

【東京都】 <ul style="list-style-type: none">東京港第8次改訂港湾計画（H26.11）（仮称）長期戦略（今年度策定予定）（仮称）構造改革（今年度策定予定）	【京浜港連携協議会】 <ul style="list-style-type: none">京浜港の総合的な計画（H23.9）	【国土交通省】 <ul style="list-style-type: none">港湾の中長期的な政策「PORT 2030」（H30.7）港湾の開発、利用及び保全並びに開港保全航路の開発に関する基本方針（R2.3）
---	---	--



検討範囲



東京港第9次改訂港湾計画